

論 文 要 旨

鹿児島大学

高齢者福祉施設におけるBPSDチームケア自己評価尺度の開発

Development of a self-assessment behavioral and psychological symptoms of dementia competency scale for care teams at long-term geriatric care facilities

氏 名 前田 則子

〔研究の背景と目的〕 高齢者福祉施設における認知症の行動および心理的症状（Behavioral and psychological symptoms of dementia以下BPSDとする）を呈する人への介護は、認知症のことをよく理解し、本人主体の介護を行うことで、認知症の進行を緩徐化させ、BPSDの予防が可能となることが示唆されている。そのため、ケアスタッフがBPSDを評価して、介入が必要な時期を判断する能力は不可欠である。これまでの研究においては、ケアスキルの向上が課題としてあげられている。しかし現状では、ケアスタッフ毎に教育歴介護経験が異なり、有するケア能力や技術が均質とは言い難く、有効なBPSDチームケアは確立されていない。そこで本研究は、BPSDチームケア自己評価尺度を開発し、その信頼性と妥当性を明らかにすることを目的とした。

〔方法〕 BPSDチームケア自己評価尺度の開発に向け、ケアスタッフが、BPSDチームケアを実践する過程を通して経験している内容をフォーカスグループインタビューによりデータとして収集し、Dickison&McIntyreのチームワーク要素モデルに基づき概念化する質的帰納的研究を実施した。その結果、チームワーク要素モデルの6概念に一致する項目が抽出された。これを下位尺度とし、サブカテゴリを基盤に55項目を作成し、5段階リカート法により尺度化した。尺度の内容妥当性を検討するため、質的研究に精通した研究者の助言を受けた。次に、プレテストを実施し尺度の修正を行った。本調査は、全国の介護老人福祉施設43施設に従事する430名を対象に実施した。質問紙の回収は留め置き法とした。分析方法は、クロンバックの α 係数と再テスト法より信頼性を推定した。因子的妥当性について、尺度原案の全55項目の探索的因子分析（最小2乗法、プロマックス回転）を実施した後、抽出された因子毎の下位構造を把握するために、再度因子毎の因子分析（最小2乗法、プロマックス回転）を行った。そして、検証的因子分析によって因子構造の妥当性について検討を行った。基準関連妥当性、構成概念妥当性について検討を行った。本研究は、所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

〔結果〕 310名（回収率80.4%）から研究協力が得られた。性別構成は、男性102名（32.9%）、女性208名（67.1%）であった。平均年齢は40.2（ \pm 10.2）歳、平均経験年数は13.1（ \pm 7.4）年であった。信頼性の検討の結果、各因子のクロンバックの α 係数は、 $\alpha = .691 \sim .892$ であった。再テスト法において、全項目に有意な相関がみられた（ $r_s = .48 \sim .76$ ）。妥当性の検討の結果、探索的因子分析では、BPSDチームケア自己評価尺度55項目の分析の結果3因子が抽出され、『チームの志向性を高めるコミュニケーション（19項目）』、『リーダーからのコミュニケーション（21項目）』、『BPSDチームの成長が促進されるコミュニケーション（15項目）』と命名した。次いで、各因子の下位構造の因子分析を行ったところ、『チーム志向性を高めるコミュニケーション因子』は、「相互支援によるチーム形成12項目（ $\alpha = .892$ ）」と、「多職種による相互支援5項目（ $\alpha = .838$ ）」で構成された。『リーダーからのコミュニケーション因子』は、「メンバーのケアスキルを助けるリーダーシップ13項目（ $\alpha = .882$ ）」、「BPSD増悪防止の働きかけ6項目（ $\alpha = .825$ ）」で構成された。『BPSDチームの成長が促進されるコミュニケーション因子』は、「相互成長5項目（ $\alpha = .776$ ）」、「日々の変化を情報共有5項目（ $\alpha = .691$ ）」、「心地よさに働きかけるケア技術の習得3項目（ $\alpha = .756$ ）」で構成された。検証的因子分析の結果、適合度は良好な値を示した。基準関連妥当性の結果、各因子共に正の相関が認められた（ $r_s = .43 \sim .73$ ）。構成概念妥当性の結果、いずれも正の相関を示した（ $r_s = .25 \sim .71$ ）。

〔考察〕 BPSDチームケア自己評価尺度の信頼性と妥当性が確認された。BPSDチームケアが機能するための要素で構成された本尺度の活用を通して、ケアスタッフは、所属のBPSDチームケアの質を測定することができるかと推察される。